

# 寄ゾーン案内図



秦野峠

高松山



東名  
JR  
御殿場線

松田山

最明寺  
史跡公園

西平畑公園

松田

川音川

香匂川



寄ソーン



# 寄地区の自然



## 寄の名木①



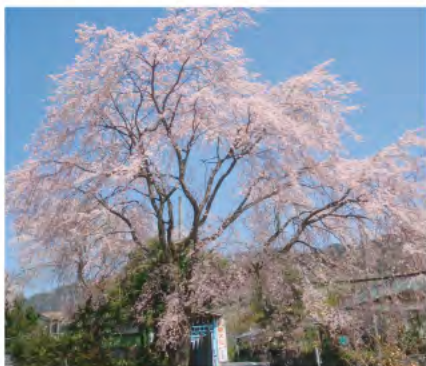
萱沼のシダレザクラ



虫沢のシダレザクラ



宇津茂のシダレザクラ



中山のシダレザクラ



ロウバイ  
(宇津茂)

## 寄の名木②



### 寄神社のスギ

寄のシンボルになっている神社参道の入り口にあるスギの大樹。幹まわりが6.4m、高さが約30mもあり、推定樹齢が500～600年といわれ、昭和59年には「かながわの名木百選」にも選ばれています。



### 寄神社のイチヨウ

神社拜殿わきにある大イチヨウは推定樹齢が700年とされ、周囲6.3m、直径2m、高さ30m程です。幹は「うろ」を生じ、かつての災害に耐えてきた老木の姿で、中には安産の神が祀られています。

## コラム 寄（ヤドリキ）の地名由来

明治8年、7カ村（萱沼、弥勒寺、中山、土佐原、宇津茂、大寺、虫沢）は合併して「寄村」となりましたが、なぜ寄（ヤドリキ）という名になったのでしょうか。この7カ村は、事あるごとに寄り集まって相談し、各村の意見をまとめて解決を図っていたことから、これから生まれる新しい村も、今までのように何事も寄り集まって相談し、仲よく進むことが大切であると考えたのでしょうか。そこで寄り合いの寄の字をいかして「寄村」としたのではないかとわれています。

（松田町教育委員会「まつだの地名」より）

### 興味深い旧地名の由来

#### ●はなじょろ道（虫沢地区）

ひねご沢より共和（山北町）の八丁に通じる道路で、昔は共和村との婚姻関係もあり、花嫁さんがここを通過してきていたのでこの名がつけられました。

#### ●お石が平（田代地区）

寄養魚組合の駐車場としている横の「うしろ沢」の上流に、高さ5～6メートル、直径6～7メートルの大きな石がありその辺をいいます。昔ここで、15・6歳の美しい機織り娘が石の下敷きになって死んだといい、その石に耳をあてると「びゅう、びゅう」と音がするということです。

#### ●札場（弥勒寺地区）

県道からゴルフ場廻りで秦野方面へ別れる福昌院がある辻。この場所には何かの連絡の時、よく木の札が立ててあったとのこと。

## 寄の自然



寄（やどりき）全景

緑の松田山と丹沢山に囲まれた寄地区は、清流の中津川が中央部を潤しています。

川の近くの平地は田や住宅地となっています。また、近くの斜面は畑として活用されています。山は多くがスギやヒノキの植林地となり、あちこちが雑木林として活用されています。

そんな中でも、自然林の面影を残す森や林があちこちに残り、松田町が誇る豊かな自然環境の地域となっています。

特に、村の北側に連なるシダngo山や宮地山のハイキングコース周辺は植生が豊かで、生き物も多く観察できます。土佐原から続く稜線は相模湾も望める素晴らしい風景を楽しめる場所もあります。

県の水源の森周辺は自然度が高く、丹沢の峰々も見える良いところです。自然観察を十分に楽しむことができます。

寄の

野の花



ヤマツツジ (6月)



アオツツラフジ (実10月)



アブラチャン (実10月)



イヌタデ (10月)



ウツギ (5月)

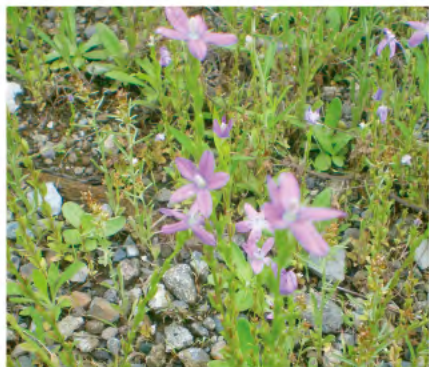




ウマノアシガタ (8月)



オニシバリ (3月)



キキョウソウ (7月)



キツネササゲ (10月)



キツネノゴマ (10月)



キツリフネ (9月)



キバナアキギリ (10月)



ギョウジャノミズ (7月)



クサソテツ (3月)



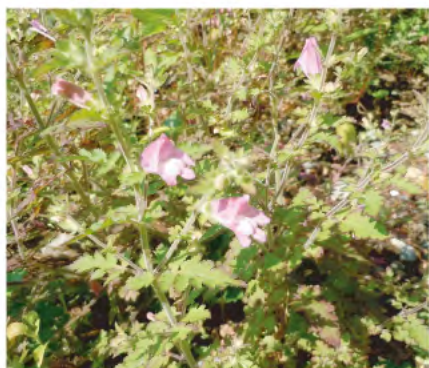
クサノオウ (5月)



クサボケ (4月)



ゲンノショウコ (10月)



コシオガマ (10月)



サワギク (8月)



スミレ (4月)



セリバヒエンソウ (5月)



タツナミソウ (4月)



ツルボ (10月)



ヒガンバナ（9月）



ホオノキ（5月）



ボタンヅル（8月）



フタリシズカ（7月）



マルバルコウソウ（9月）



ヤマホタルブクロ（7月）